

第15回（平成28年度 第4回） 東近江市市民協働推進委員会 会議録

◆開催日時 平成28年12月6日（火）午後7：00～9：00

◆開催場所 東近江市市役所新館 313会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、森井源藏、小倉昌和、太田裕子、楠神渉、築山清美
森下瑠美、北井香、大林恵子、藤澤彰祐、大橋正徳、板倉元
横田真也

事務局 まちづくり協働課 福井、村田、村井
（傍聴者：0人）

◆議事 「若者のまちづくりへの参画」について③

◆会議録

開会

【事務局より開会のあいさつ】

皆さんこんばんは。3日に開催しましたわくわくこらぼ村ですが、去年より少し出展数は少なかったのですが、ずっと去年よりも良い雰囲気、最後の表彰式でも3団体、こらぼ村賞やプレゼン賞など出しましたが、3回目になって皆さんも慣れてこられたのもあって、うちが一番なのに！という感じではなく素直に表彰されたところをたたえるという良い感じのこらぼ村だったと思います。ありがとうございました。本日もよろしくお願ひします。

【委員長よりあいさつ】

皆さんこんばんは。本当にこらぼ村もお疲れさまでした。その前段の選考も、非常に悩ましい選考をヒアリングも含めてやっていただきまして、受賞団体の皆さんも喜んでいただきましたし、会場で何人かの方に声をかけていただき、「励みになるわ」とか、「賞をもらえると思っていなかった」とか、いろんなことを言っていたのをみると、悩ましながら選考してよかったなと思いました。続けていくことが非常に大事だなと思うのと、コーディネート賞みたいなものをきちんと差し上げられているということも、団体だけではなく、そういう陰の縁の下の力持ちのような方にみんなでご苦労さんと言ってあげるというのも非常に大事だなと思いました。皆さんお疲れさまでした。

今日は少し協働大賞の振り返りをするのと、今日のメインは「若者のまちづくりへの参画」について後半しっかりやって、ゴールとしては、今年度中に若い世代の人たちとまちづくりについて話をするのか、皆さん方のアイディアに任せますが、この間議論していただいた「若い世代とのまちづくり」、「若い世代・まちづくり」というキーワードで、何らかの動きを今年度実験的にでもやってみたいと思っています。皆さん方がここで議論していただいたことを、今日は実施計画レベル位の素案、荒くても良いのですが、こんなことをこういうかたちでやったらどうだ！というところを少し各グループでとりまとめる作業をしていただきたいと思います。これまでの議論を踏まえて、アイディアから一歩進めて、ただ単なるアイディアではなくて少し今年度こういう動きからやり始めたらどうだという提案レベルくらいにブラ

ッシュアアップしていただく時間を1時間半ほどとります。大まかな流れとしては2月か3月くらいに実際にやってみようという風に思っていますので、そこにつながるような議論をお願いしたいと思います。

では、最初に協働大賞の振り返りと、能登川北小学校で動きがあったということですので、事務局からお願いします。

(事務局)

【協働大賞・こらぼ村の振り返り、能登川北小学校での授業の紹介】

「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞、今年度2回目ということで15事例がありまして、委員会で選考していただき、9事例と2人の方に賞を決めていただきました。その事業概要や評価、皆さんがコメントしてくださったことを事務局でまとめて一覧にさせていただいたものを資料に付けています。また、副賞に付けました協賛については23種類と書いてあるのですが、20の個人や団体からいただいたもので、表彰状と共にお渡しをさせていただきました。

大賞は委員会で決めていただきました、蒲生地区まちづくり協議会の「赤い糸プロジェクトVOL20'がちゃ婚」ということで婚活の取組でしたが、こちらを大賞に選んでいただき、またそれをコーディネートされた森田初枝さんにコーディネーター賞を受賞していただきました。左側が、今年はその時間帯に小椋市長の時間が取れましたので、表彰状を渡していただき、森田さんが受賞されている写真が載っています。また、ヒアリングに行っていた北井委員さんからのコメントもいただき、右がその写真になっています。最終、9事業にコーディネーター賞のお二人も出席ということで、受賞者の皆さん全員で記念撮影をしました。

今年のこらぼ村ですが、12月3日アピアホールでしたのですが、今年は環びわこ大学・地域連携コンソーシアムという県内のいろんな大学と地域とが連携しながらいろんな事業に取り組むということをされていて、その発表会も兼ねてということでしたので、ポスター展示とステージでの事業の発表を学生さんと地域の方がされましたので、それがすごく今年のこらぼ村は違った雰囲気だったのかなと思います。下の方が学生さんが発表されている写真です。参加者もそういったことで去年は1100名くらいかなと言っていたのですが、今年はそのよりも多い1200名くらいの方がいろんなかたちで参加してくださったのではないかと思います。今日、若い人達のまちづくりへの参画というテーマでお話を進めていただくのですが、そういった大学との連携も参考になるのかなと思いますので、参加された方はそういったことも含めてグループワークの中でもお話いただけたらと思います。最後は、参加された団体さんやスタッフ全員で記念撮影をしています。こらぼ村のイメージで、参加型でこらぼ村のジオラマを作ってもらいましたので、少し分かりにくいかもしれませんが、そのジオラマが真ん中にあります。

それと、もう一つは小学校でのまちづくりの授業ということで、能登川北小学校でまちづくりのことを勉強されているということでこちらにお話があって、市民協働推進計画の概要版と、昨年度の協働大賞の事例をまとめた協働事例集をお渡ししましたら、それを活用されて事例の研究をされて、発表のプレゼンテーションを2日にされましたので、能登川のまち

づくり協議会さんが2名と、この協働推進委員会の大橋委員さんと一緒に授業を見せていただきました。

ももとは6年生の国語の教科書に、まちの幸福論・コミュニティデザインを考えるとということで、山崎亮さんの書いておられる文章が教科書に載ってまして、それを元に6年生でまちづくりの勉強をされているんだなということを知って、すごく驚きました。この能登川北小学校は市内でも一番小さい学校で、6年生も1クラスで小さくこじんまりとしたところなのですが、ここは協働大賞でも「くりみフェスタ」というのがあったのですがそれを受賞されたところですよ。そのからみがあるのか無いのかは聞いていませんが、地域と一緒にまちづくりへ関わっていらっしゃるのかなと思いました。6年生の授業で子どもたちが4つのグループに分かれて、まちづくりの事例を調べて自分たちが目指す未来のまちについて発表をするということでプレゼンテーションを上手にされていました。各班がまちづくりの提案をされるのですが、それぞれ違った提案をされていて、ここに書いてあるような、4つの提案を最終まとめとしてされていました。すごく良い発表をされて感動をしていたのですが、大橋委員さんにも行っていただいたので、コメントをいただけたらと思います。

(大橋委員)

授業参観のように行かせていただいて、6年生16人が4班に分かれて、それぞれ4人が役割分担されて、非常にしっかりとした意見が聞けました。先ほどにもありましたが、やっぱり私たちが思っていることを子どもたちも同じように思っているんだなと感じて参考になりました。ここで議論をしている若い人たちの参加ということは本当に必要なんだなと切に感じました。この北小学区という場所は、大風の会場があった愛知川の河川敷の近くにあるのですが、どちらかというと琵琶湖寄りでも能登川地区でも田舎の方、農業が盛んなところですよ。駅前地区とその間の小学校が東西南北あるのですが、もっとおとなしいかなと思っていたら活発に意見を言っていて、自分の考えをきちっと言える、やはりこういった中で大人もきちっと子どもたちの意見を聞いてあげないといけないなということも再度感じました。

(事務局)

今考えていただいている中で、若者の世代であったり学校との連携ということも付箋の中に書いてありましたので、小学校でもここまでできるということも分かったので、少しこういったことも参考にして話ししていただければと思って紹介させていただきました。

(深尾委員長)

本当にそうなんですよね。この前ある高校でまちづくりのことを議論していても、高校生がすごく良い議論をするんですよね。何で大人達教えてくれないんだろう、何でこんなこと今まで自分たちは知らなかったんだろうと言って、大人達に向かって何で自分たちに教えてくれないんだとか、そういう機会をくれないんだということ、ある意味注文を付けるとか、同時に自分たちもそういうことに無関心できたことを反省しながら大人達に注文しているという高校生達が居て、なかなかやっぱりゆだねたり任せたりするというのが、小学生で実はそこまでいろいろ考えてやれるとすると、子どもだから無理だろうとか若いからまだ無

理だろうとか思ってしまうのですが、実はもっと任せたり情報を共有できるしくみがあれば主体的にいろんなことが動くんだなということを、先ほども小学生の話聞きながら思っていました。

今皆さん方と議論している若者のまちづくりへの参画が、説教じみた参画というか、水飲み場にロープつけて連れてくるような参画ではなくて、主体性とか、まちの一人の市民として子どもたちや若者達を捉えたときに、どういう価値や行動を共有できるのかということをお互いのとっかかりというか、大人達も子どもたちや若者達にこういう情報を共有したいとか動きを一緒につくることに慣れてない訳ですよ。子どもたちもそういったことをやったことがないということがあるとすると、そういうきっかけになるような動きとか、一緒に楽しめるような動きとかっていうこと、どういう場を持っていけば良いのかということがたぶん今年度我々が悩みながらできたら良いなという風に思っていることだと思います。

一応これは計画上、若者のまちづくりへの参画についての取組がまだ東近江市でできていないところから、今年度何らかのかたちでアイデアをスタートしたいねという文脈で議論を始めていますので、冒頭にも申し上げましたが、ここからそれぞれのグループで今までの議論を振り返ってもらいながら、何を具体的にどういうことをやったら良いのか、かつその理想型に向かっていくためには今年度どういったところからスタートしていけば良いのかということ、今年度やれそうなこととか、我々が動きながら、市役所も汗かいていただきながら一緒にやれることってどういうことがあるんだろうということ、それぞれのグループでとりまとめていただければと思います。また、それぞれのプランをシェアしながら、実際に2月3月でどういうことができるのかなということ、皆さん方で共有して、ちょっとした歩みを進められるのであれば進めていけたらと思います。

【若者のまちづくりへの参画について】

＜グループごとに意見交換し、アイデアをまとめる＞

Aグループ

- ・対象：外から来たお嫁さんや若い移住者、地域のことに詳しい地元の人
- ・場：美味しいものを並べて、立ち話からゆっくりしゃべれるような雰囲気
- ・テーマ：東近江市に来て発見したこと、疑問に思っていること、良かったこと
- ・その他大切なことやキーワード

「楽しい・嬉しい・おいしい」

お嫁さんを集めるには託児が必要

その場を1つの起点として、そこで出た話題に合わせて広げていくというスタイル

友達と誘い合って参加できる

◆今年度の動き→平成29年度に開催できるように今年度は準備期間とする。

美味しいもの(コミュニケーションが生まれるもの)のリストアップ、開催地区やテーマ決め、一度委員会メンバーでやってみるなど・・・

Bグループ

- ・対象：市内の中学生（東近江市の田舎と中心地である、能登川・聖徳・永源寺）
- ・場：学校に出向いていく。輪になって話をするイメージ
- ・テーマ：夢を語りませんか
- ・その他大切なことやキーワード

「まちづくりのため」というのではなく、自由に喋れる場にする
大人と子どもと一緒に話せる
アイスブレイクを十分にして雰囲気作りを大切にする

◆今年度の動き→12月中に中学校へ話をする。3月頃に開催したい。

どちらのグループにも共通していた意見

募集時には「まちづくりのため」と言わない方が入って来やすい
最後に「出てきた意見をまちづくりに活かしていきます」と伝える
若者＝まち年齢（東近江歴）が若い人、東近江ビギナー
子どもを通じて大人を変える
くどくどやらない、文句を言わない
1つのきっかけとして、委員やまちづくりに関わる人が増えると良い

【事務連絡】

次回の委員会日程については、後日連絡。

閉会